

# 市民が記録した戦争

～手紙、日記、作文、絵画で平和を考える～

「9・11アメリカ同時多発テロ事件」から始まった21世紀。現在も、地球上では戦争や紛争が続いています。それらの一番の犠牲者は、市民です。心身に深い傷を負った人々は、何を考えながら日々を過ごしているのでしょうか。今回の「番組を視聴する会」では、第2次世界大戦など戦時下に市民が残した記録を題材にした7本のテレビドキュメンタリーをご覧ください。各地に残された文章や絵に込められた彼らの思いとは何か。市民の視点で記録された史料をいま改めて読み解くことによって、時代を超えても継承されるべき平和への願い、心の営みを深く知っていただければ幸いです。

時刻	上映番組の概要
10:30 } 11:28	<p><b>郵便兵と絵手紙 孫娘が語り継ぐ祖父の戦争</b> (2005.5.31/中京テレビ放送/58分) 【015523】</p> <p>「郵便兵」として招集されビルマ（ミャンマー）で戦死した祖父が戦地から送っていた100通もの絵手紙。祖父の足跡をたどってビルマを旅した孫娘が見たものを紹介し、ビルマ戦線の現実と孫娘によって語り継がれる「祖父の戦争」を伝える。◆生き生きと働く人々、こちらを見つめる少女のまなざし。一枚一枚に優しい思いが込められた祖父の絵手紙に、幼いころから心ひかれていたピアニストの石塚まみさん。彼女が旅したビルマには、そのころと同じ風景に優しい人々が今も暮らしていた。しかし、人々の心には戦争の傷跡が深く残っていた。 ●第53回日本民間放送連盟賞報道番組部門優秀</p>
11:35 } 12:01	<p><b>カメラルポルタージュ 疎開絵日記</b> (1965.8.10/TBSテレビ/26分) 【000485】</p> <p>第2次世界大戦の末期、東京から富山に疎開した9歳の少女が書き続けた1年間の絵日記を元に構成したドキュメンタリー。◆東京に住んでいた国民学校4年生の中根さんは、空襲が激しさを増してきた1945年、同級生たちとともに富山県の福光町（ふくみつまち。現在の南砺市）に集団疎開した。町の古い造り酒屋に暮らすことになった彼女は、日々の出来事を絵日記に書き残していた。その絵日記には戦時下の生活や終戦以降の世の中の動きが、子どもとは思えないほどしっかりと絵と文で書かれている。戦争中の庶民の生活実態を知ることができる貴重な記録である。 ●第6回モンテカルロ国際テレビ祭最優秀歴史的ドキュメント</p>
12:05 } 12:58	<p><b>子どもたちの戦争 置き去りにされた文集から</b> (2009.5.20/福井放送/53分) 【204805】</p> <p>60年ぶりに見つかった文集から、小学生たちが経験した太平洋戦争を振り返るドキュメンタリー。◆福井市明倫中学校の体育館倉庫から、昭和24～31年（1949～56）に在籍した生徒が夏休みの宿題として書いた作文1973人分、41冊の文集が見つかった。「生い立ちの記」や「我が家の記」といったテーマで自分や家族について紹介する中に、戦時下を生き抜き、1945年に福井空襲を体験した事が生々しい言葉でつづられていた。現在70代となっている当時の中学生たちを、自らも小学2年生で東京大空襲を経験した俳優・山本學さんが訪ねる。 ●第57回日本民間放送連盟賞教養番組部門優秀</p>
13:05 } 13:54	<p><b>NHK特集 農民兵士の声がきこえる ～7,000通の軍事郵便から～</b> (1982.9.27/NHK/49分) 【003622】</p> <p>1931年から終戦までの間、教え子たちが戦場から故郷の恩師に送った手紙を通して、東北のある村が体験した戦争の過程を追うドキュメンタリー。◆1981年暮れ、岩手県の故人宅の納屋から、約7000通の軍事郵便が発見された。教師だったその人へ、教え子たちが戦場から送ったものであった。手紙の朗読と当時の写真、残された家族の談話を通して、戦争の記憶の風化が懸念される現代への問いかけを行う。 ●第37回芸術祭賞優秀賞</p>
14:00 } 14:47	<p><b>民教協スペシャル 決壊 祖父が見た満州の夢</b> (2018.2.11/信越放送/47分) 【212603】</p> <p>戦時中、理想と現実のはざままで悩みながら村長を務めた一人の男性の日記を通して、戦争の過ちについて考えるドキュメンタリー。◆太平洋戦争中、長野県河野村（かわのむら。現在の豊丘村）で村長を務めていた胡桃澤盛（くるみざわ・もり）は、国策に従い、村民を満蒙開拓団として満州国へ送り出した。しかし終戦間際、ソ連軍の侵攻で戦場と化した満州で73人が集団自決。後に胡桃澤は罪の意識にさいなまれ、42歳で自ら命を絶ってしまう。今、孫の手元に彼が10代の終わりから死の直前まで書いていた日記が残されている。常に正しくありたいと願っていた彼の日記は、戦後を知らない世代に大切なことを伝えようとしていた。</p>
14:55 } 15:44	<p><b>NHKスペシャル 戦争を知らない君たちへ 空爆の下の対話 ～インターネットが記録した戦争～</b> (2000.8.13/NHK/49分) 【013223】</p> <p>1999年、NATO軍によってユーゴ空爆が行われている最中、首都ベオグラードに住む21歳の女子学生が、インターネットを通して世界中の人々と対話していた。空爆する側とされる側が、初めてリアルタイムで戦争について語り合った記録をたどり、戦争の意味を問う。◆かつて彼女がホームステイしたアメリカの家庭へ、「戦争日記」と名づけて電子メールで発信された日記。マスメディアが伝ええない空爆下の悲惨な現実がつづられた日記はやがてウェブサイト掲載され、アメリカ、イギリスなど世界中から1日に6万件ものアクセスを受けるようになった。彼女には激励や共感のメールが送られる一方、彼女と同じセルビア人がコソボで行った虐殺を批判する声も届くようになる。 ●第38回ギャラクシー賞奨励賞</p>
15:50 } 16:36	<p><b>報道特集 ポーランドの小さな証言者たち</b> (1986.12.7/TBSテレビ/46分) 【003093】</p> <p>第2次世界大戦で、ポーランドはナチス・ドイツに踏みこまれ、600万人の命が奪われたといわれる。首都ワルシャワにある国立現代史資料館には、戦争体験を描いた子どもたちの絵と作文が保存されている。番組では、父母の銃殺、収容所への強制連行の場面などの作品を紹介し、42年ぶりに判明した作者へのインタビューを通して戦争の記憶の風化を問う。素朴なタッチで描かれた作品と再会した作者たちは、「子や孫に同じ体験をさせたくない」と語る。 ●1987年「地方の時代」映像祭審査委員会推奨</p>

【数字】は「番組ID」です。放送ライブラリーの視聴ブースで番組を検索する際にご利用ください。

※予告なく番組を変更する場合があります。

※上映する番組に登場する方々の役職や地名、引用している資料・知見・データならびに法律・制度・政策等は、すべて放送当時のものです。あらかじめご了承ください。

※番組に登場する方々の人権やプライバシーに関しては十分配慮しておりますが、お気付きの点があればお申し出ください。

